

管理栄養士養成施設における早期体験学習の教育効果 ー上位学年における効果の継続についてー

沖嶋 直子・水野 尚子・藤岡 由美子

Educational Effectiveness of Early Exposure for the Student Who
Study the Training Course of Registered Dietitian.

- The Educational Effect Continued While They Were Senior Year's Student -

OKISHIMA Naoko, MIZUNO Naoko and FUJIOKA Yumiko

要 旨

我々は、平成20年度から早期体験学習の一環で乳幼児健診の見学を実施してきた。今回は、全員参加で早期体験学習を行った平成20年度～22年度入学生を対象に、その後の大学での学びなどへの影響を調べるため、3～4年次に振り返りアンケートを実施した。

その結果、1年次に乳幼児健診を見学することは、見学直後だけでなく、上位学年においても応用系科目を学ぶ上での事前学習として有効であったことが示唆された。

キーワード

早期体験学習 応用系科目 職業選択

目 次

1. 緒言
2. 対象と方法
3. 結果
4. 考察
5. 結語

謝辞

参考文献

1. 緒言

早期体験学習はアーリーエクスポージャー (Early Exposure)とも呼ばれ、1～2年次の専門科目をまだ本格的に学んでいない学生を対象とし、将来就職することが予想される職場へ派遣し、専門的な知識や技術を持たない状態で見学や実習を行う教育手法である。

早期体験学習は、医学部、歯学部や薬学部における実施報告例が多い^{1)～3)}。近年では、薬学モデル・コアカリキュラム⁴⁾に掲載され、その実施が推奨されている薬剤師養成課程の他^{5) 6)}、看護師養成課程における実施報告が増加してきている^{7) 8)}。さらに、チーム医療が円滑に行われるようになるために、2009年より医学部・薬学部・看護学部が合同で早期体験学習を実施している名古屋市立大学⁹⁾や、看護・理学療法・作業療法・放射線技術の各学科が共同で早期体験学習を行っている茨城県立医療大学¹⁰⁾、大学の枠を超えて長崎薬学・看護学連合コンソーシアムを結成し¹¹⁾、連携して早期体験学習を実施している長崎大学・長崎国際大学・長崎県立大学の取り組み¹²⁾は、その中でも特筆すべきものであると思われる。

管理栄養士養成においても同様に、入学後早期からの職業観の育成、勉学への動機づけの必要性について言及されている¹³⁾。さらに、管理栄養士モデルコアカリキュラムにおいて「II. 管理栄養士を目指す気持ちを育む導入教育」が新たに提案された¹⁴⁾が、薬学モデル・コアカリキュラムとは異なり、早期体験学習については明文化されていない。それだけでなく、本学¹⁵⁾の他に管理栄養士養成施設における早期体験学習の実施報告は、長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの一環で、管理栄養士養成課程の学生も受講しているというほんの数行の記述のみ¹²⁾であることから、医学や薬学、看護学といった他の医療職養成課程と比較して管理栄養士養成課程が遅れを取っている感は否めない。

我々は高等学校までのゆとり教育を経て入学してきた学生に教育を行っているが、入学前教育の結果から推し量れる基礎学力や、FDアンケート¹⁶⁾で回答された授業時間外の勉強時間から推察される学習意欲が低下していることを実感している。「偏差値が合ったから」、「料理が好きだから」、「先生や保護者が勧めたから」などの理由で、管理栄養士の業務や管理栄養士養成施設における教育内容についてよく理解しないまま、安易に進路を決める学生も少なくない。このような何も知らないまま入学してきた学生は、大学での学びに意欲的になれないことが多いが、ひいては国家試験に向けての自主学習時間の少なさにもつながり、その結果国家試験に合格できないという悪循環になっていると考えられる。このような背景から、入学後早期に管理栄養士の業務や管理栄養士養成課程における学習内容の意義について理解させ、自ら学ぶ姿勢を持たせることがこれまでより一層必要となってきた。

そこで我々は、平成20年度から22年度にかけて新入生全員を対象とした、一職業現場としての乳幼児健診の見学を実施してきた。見学直後や2年次前期開講直後における学習効果については既に報告したが¹⁵⁾、早期体験学習が上位学年に至った際の大学における学びに及ぼす影響については、他の医療資格養成施設においても報告はない。そこで今回は、早期体験学習の上位学年に至った時点での学びや就職活動への影響について調査するために、3年次あるいは4年次に振り返りアンケートを実施した。その結果を報告する。

2. 対象と方法

2-1. 対象

松本大学人間健康学部健康栄養学科平成20年度入学生(2期生)、平成21年度入学生(3期生)及び22年度入学生(4期生)。

2-2. 見学先および見学内容

対象者らは、1年次の5月～翌年3月にかけて、長野県東筑摩郡山形村保健福祉センター(いちいの里)における乳幼児健診を見学した。

この施設を選択した理由、見学内容、事前指導など詳細については、既報¹⁵⁾を参照されたい。

2-3. 振り返りアンケート

2期生に対しては、専門科目を履修済みで臨地実習も全て終了し、就職活動もほぼ終了した4年次12月に、3期生及び4期生は、専門科目のほぼ全てが履修済みか履修中で、就職活動を控えた3年次10月にアンケートを実施した。

<p style="text-align: center;">アンケートにご協力下さい！</p> <p style="text-align: center;">皆さんが1年生の時に全員参加で見学した、乳幼児健診についての質問です。</p> <p>1. あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか。</p> <p>大変勉強になった やや勉強になった どちらでもない あまり勉強にならなかった 全く勉強にならなかった</p> <p>コメント</p> <hr/> <hr/> <p>2. (大変勉強になった、やや勉強になったと回答した人へ) 乳幼児健診の見学は、大学内でどの科目を学ぶのに役に立ちましたか。</p> <p>_____</p> <p>3. 乳幼児健診の見学は、これから始まる就職活動に影響すると思いますか。</p> <p>とても影響する やや影響する どちらでもない あまり影響しない 全然影響しない</p> <p>コメント</p> <hr/> <hr/> <p>4. 今の1年生や来年度以降の新入生は、時間割の関係で希望者のみに参加に変更となりました。あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか。</p> <p>絶対参加した方がいい できるだけ参加した方がいい どちらでもよい あまり参加しなくてもよい 絶対参加しなくてよい</p> <p>コメント</p> <hr/> <hr/> <p>6. その他コメントがあれば記入して下さい。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
--

図1 平成21年度入学生(3期生)のアンケート原本

3期生に実施したアンケートの原本を図1に示す。基本的にどの学年も同じ内容で質問しているが、年度によって尋ねた時点での状況が異なるため、その状況に合わせて質問文を変えた。問3の就職活動については、既に就職活動がほぼ終了した4年次12月にアンケートを実施した2期生に対しては、「3. 乳幼児健診の見学は、就職活動に影響しましたか。」と過去形で尋ねたが、就職活動解禁を控えた3年次10月に実施した3期生、4期生については「3. 乳幼児健診の見学は、これから始まる就職活動に影響すると思いますか。」と現在形で質問した。また、「4. 後輩へこの見学を勧めるか」については、2期生、3期生にアンケートを実施した時点では、時間割の変更に伴い全員参加ができなくなったため、希望者のみ夏季・春季休暇中に引率する形式に変更したことから、「4. 今の1年生や来年度以降の新入生は、時間割の関係で希望者のみ参加に変更となりました。あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか。」と尋ねた。しかし、4期生にアンケートを実施した平成24年度は、派遣先担当者2名がいずれも異動となり、後任者との連携が出来なかったため実施を控えた。このため、現状に合わせて「4. 本年度の新入生は、担当者不在のため乳幼児健診をやむなく中止しました。あなたは後輩のために再開させた方が良く考えますか。」に変更した。

3. 結果

3-1. 2期生(平成20年度入学生)

アンケートの回収率は77% (78名中60名)だった。

問1「あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか。」については、「大変勉強になった」が42% (25名)、「勉強になった」が45% (27名)であり、全体の90%近くは、見学からおおよそ3年が経過した後も見学内容が勉強になったと回答した(図2)。見学直後のアンケートでは、96%の学生が「参考になった」と回答しており¹⁵⁾、それに比べると9ポイントの低下が見られた。自由記述欄には「実際の現場を知れた(合計10名)」、「管理栄養士の業務を知れた(合計7名)」、「対象者との接し方を見学できた(3名)」、「多(他)職種協働を見ることができた(2名)」などの他、「管理栄養士(という)の職のイメージ(料理を作る人)が変わった(1名)」、「将来の自分のビジョンが出来た(1名)」と回答した学生も存在した(表1)。具体的にどの科目を学ぶのに役立ったかについては、講義、実習内容に直接関連する「応用栄養学」、「ライフステージ栄養学及びその実習」、「公衆栄養学」、「栄養教育学」等の応用系科目が53名と多く挙げられたが、基礎系科目である「基礎栄養学」や「解剖学」、「生理学」を挙げる学生も、4名と少数ではあるが存在した(表2)。

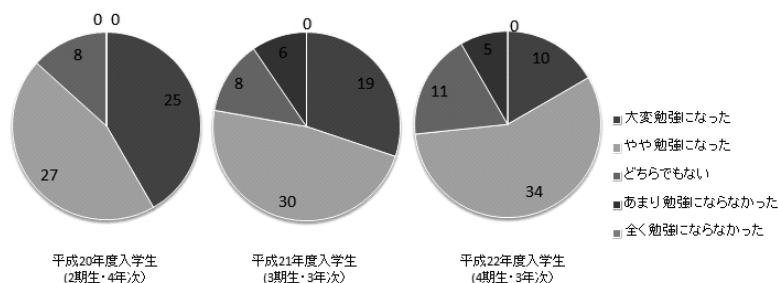


図2 「あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか」

表1 「あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか」2期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても勉強になった	実際の現場を知れた (7名) 管理栄養士の仕事を知れた (4名) 多 (他) 職種協働の現場を見学できた (2名) 大学での学びに役立った (2名) 大学の座学では学べないことを学べた (2名) 母子と触れ合うことができた (1名) 保健センターの役割を知れた (1名) 保健センターで働きたいと思った (1名)
やや勉強になった	乳幼児健診について知れた (4名) 管理栄養士の仕事を知れた (3名) 実際の現場を知れた (3名) 対象者との接し方を見学できた (3名) 臨地実習に役立った (1名) 管理栄養士の職のイメージ (料理を作る人) が変わった (1名) 将来の自分のビジョンが出来た (1名)
どちらとも言えない	勉強にならなかった訳ではないが、活かす時がなかった (1名)

類似回答は1つにまとめた。

表2 乳幼児健診の見学は、大学のどの教科を学ぶのに役立ちましたか。自由記入欄

基礎系科目	応用系科目
2期生	
基礎栄養学 (1名)	応用栄養学 (16名)
臨床医学 (1名)	ライフステージ栄養学 (11名)
解剖学 (1名)	ライフステージ栄養学実習 (1名)
公衆衛生学 (1名)	公衆栄養学 (14名)
	臨床栄養学 (6名)
	栄養教育学 (3名)
	臨地実習 (公衆栄養学) (2名)
3期生	
基礎栄養学 (6名)	応用栄養学 (11名)
解剖学 (1名)	ライフステージ栄養学 (22名)
生理学 (1名)	ライフステージ栄養学実習 (8名)
	公衆栄養学 (7名)
	栄養教育学 (3名)
	臨床栄養学 (2名)
	臨床栄養管理実習 (2名)
4期生	
公衆衛生学 (2名)	ライフステージ栄養学 (7名)
	公衆栄養学 (4名)
	臨地実習 (4名)
	栄養教育学 (3名)
	ライフステージ栄養学実習 (2名)
	応用栄養学 (1名)
	臨床栄養学 (1名)

就職活動への影響については、「全然影響しなかった」、「あまり影響しなかった」と回答するものが合わせて65%（39名）と半数以上を占めた（図3）。自由記入欄にも同様のコメントが多かった（表3）。

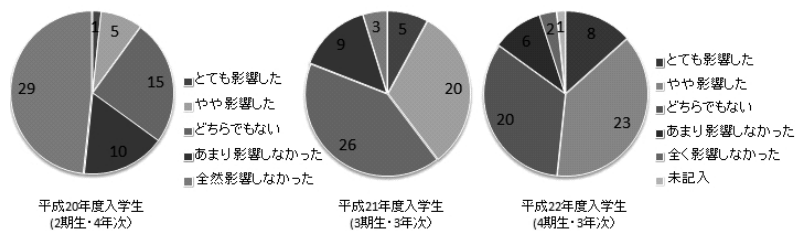


図3 乳幼児健診の見学は、就職活動に影響した(2期生)/(3期生)すると思いますか。

表3 「乳幼児健診の見学は、就職活動に影響したと思いますか。」2期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても影響した	保健センターに就職しようと思った（1名）
やや影響した	選択の幅が広がった（2名）
どちらでもない	公務員試験を受けたので、多少参考になった（1名） 職場の一つとして見学できたことは良かった（1名） 職種を選択する上では影響した（1名）
あまり影響しなかった	違う進路を選択した（2名）
全然影響しなかった	違う進路を選択した（4名） ゼミとは全く違う内容だったため、面接で話題にならなかった（1名） 管理栄養士の職種の認識は広がったが、自分の就職には影響しなかった（1名）

類似回答は1つにまとめた。

問5「あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか」については、15名が「絶対参加した方がよい」、34名が「できるだけ参加した方がよい」と回答し、全体の82%に当たる49名が参加した方がよい、と回答していた（図4）。自由記述欄には、その理由として「貴重な体験(5名)」、「講義を聞くより、見た方が理解できる(3名)」、「勉強になる(4名)」などが記述されていた（表4）。

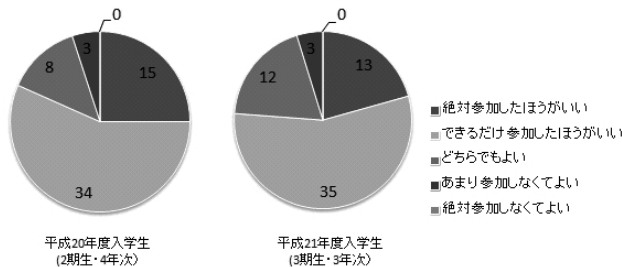


図4 今の1年生や来年度以降の新入生は、時間割の関係で希望者のみに参加に変更となりました。あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか。

表4 「今の1年生や来年度以降の新入生は、時間割の関係で希望者のみに参加に変更となりました。あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか。」2期生自由記入欄。

選択肢	コメント
絶対参加した方がいい	講義を聞くより、見た方が理解できる (2名) 大学内での学びに役に立つ (2名) 管理栄養士の仕事が見られる (1名) 貴重な体験 (1名) 視野が広がる (1名) 臨地実習に役立つ (1名)
できるだけ参加した方がいい	勉強になる (4名) 貴重な体験 (4名) 臨地実習に役立つ (2名) 管理栄養士の業務について知れる (2名) 大学内の学びに役に立つ (2名) 学生のうちにしか体験できない (1名) 興味はなくても様々なことを知っておいた方がよい (1名) 講義を聞くより、見た方が理解できる (1名) 国家試験の勉強に役立つ (1名)
どちらでもよい	興味のある人は参加するとよい (1名) 希望者のみの方がモチベーションが上がる (1名) 目的意識を持って行くのが大切 (1名)

類似回答は1つにまとめた。

3-2. 3期生(平成21年度入学生)

アンケートの回収率は83% (76名中63名)だった。

「あなたは乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか。」については、「大変勉強になった」が30% (19名)、「勉強になった」が48% (30名)であり、全体の80%近くは見学からおおよそ3年が経過した後も見学内容が勉強になったと回答した(図2)。見学直後のアンケートでは、98%の学生が「参考になった」と回答しており¹⁷⁾、そこから20ポイントの低下であり、2期生よりも低下の幅が大きかった。自由記入欄には「管理栄養士の仕事を知れた」(22名)、「将来の職業イメージに繋がった」(4名)、「多(他)職種協働を見ることができた」(2名)、「乳幼児健診について見学できた」(1名)、「コミュニケーションの大切さを知った」(1名)などの他、「講義に繋がった」(1名)と回答した学生も存在した(表5)。具体的にどの科目を学ぶのに役立ったかについては、2期生と同様に、講義、実習内容に直接関連する応用栄養学、ライフステージ栄養学及びその実習、公衆栄養学、栄養教育学が56名と多く挙げられたが、基礎系科目である基礎栄養学や解剖学、生理学を挙げる学生も8名存在した(表2)。

就職活動への影響については、「あまり影響しない」が14% (9名)、「全く影響しない」が5% (3名)であり、「どちらとも言えない」が41% (26名)、「やや影響する」が14% (9名)、「とても影響する」が5% (3名)であった(図3)。「影響する」「やや影響する」と回答した理由として、自由記述欄には「乳幼児健診に関わりたと思った(1名・とても影響すると回答)」と記述する学生も存在した(表6)。

表5 「あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか」3期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても勉強になった	管理栄養士の仕事を知れた (8名) 乳幼児と触れ合うことができた (2名) 乳幼児検診について見学できた (1名) 学習の足りなさを実感した (1名)
やや勉強になった	管理栄養士の仕事を知れた (14名) 将来の職業イメージに繋がった (4名) 多 (他) 職種協働を見ることができた (2名) コミュニケーションの大切さを知った (1名) 講義に繋がった (1名) 乳幼児と触れ合うことができた (1名) 将来の母親としての勉強ができた (1名)
どちらとも言えない	母子に触れ合うことができた (1名) 行政の就職の勉強になった (1名)
あまり勉強にならなかった	あたふたして記憶に残っていない (1名) 当時は知識がなくてよくわからなかった (1名) 自分のモチベーションもあるが、これを学べたというのがなかった (1名)

類似回答は1つにまとめた。

表6 「乳幼児健診の見学は、就職活動に影響したと思いますか。」3期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても影響した	乳幼児健診に関わりたと思った (1名) 就職活動の視野が広がった (1名) 将来に活かせる (1名)
やや影響した	管理栄養士の仕事を実際に見ることが出来た (6名) 自分には影響しないが、興味のある人には影響する (3名) 良い体験になった (2名) 公務員試験の面接に活かせる (1名)
どちらでもない	就職には直接影響しないと思う (5名) 面接のアピールポイントとして有効 (2名)
あまり影響しなかった	自分には影響しないが、興味のある人には影響する (3名) 関連がないように思う (1名)
全然影響しなかった	自分には興味がない (1名) 自分の就職には関係がない (1名)

類似回答は1つにまとめた。

問4 「あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか」については、「絶対参加した方がよい」が13名、「できるだけ参加した方がよい」が35名であり、全体の76%に当たる48名が参加した方がよい、と回答していた(図4)。その理由として、自由記述欄には「管理栄養士の仕事が理解できる(合計8名)」、「大学内での講義を学ぶ意欲が出る(3名)」などが記述されてい

た(表7)。

表7 「今の1年生や来年度以降の新入生は、時間割の関係で希望者のみに参加に変更となりました。あなたは彼らに乳幼児健診の参加を勧めますか。」3期生自由記入欄。

選択肢	コメント
絶対参加した方がいい	管理栄養士の仕事が見られる (3名) 貴重な体験、新たな発見がある (3名) 大学内での講義を学ぶ意欲が出る (2名) 乳幼児健診について知ることができた (2名)
できるだけ参加した方がいい	管理栄養士の仕事内容について理解できる (5名) 就職活動の参考になる (3名) 授業の理解につながる (1名)
どちらでもよい	興味のある人は参加するとよい (2名) 希望者のみの参加でよい (1名) 知識が足りないので、行くのは早いと思った (1名)

類似回答は1つにまとめた。

3-3. 4期生(平成22年度入学生)

アンケートの回収率は91% (61名/75名)だった。

「あなたは乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか。」については、「大変勉強になった」が16% (10名)、「勉強になった」が56% (34名)であり、全体の70%近くは見学からおおよそ2年が経過した後も見学内容が勉強になったと回答した(図2)。その理由として、自由記述欄には「管理栄養士の仕事を知れた」、「乳幼児健診業務について知れた」「自分の将来を考える上で有益だった」などと記述されていた(表8)。具体的にどの科目を学ぶのに役立ったかについては、講義、実習内容に直接関連する応用系科目である、「応用栄養学」、「ライフステージ栄養学及びその実習」、「公衆栄養学」、「栄養教育学」が40名と多く挙げられたが、基礎系科目では「公衆衛生学」を挙げる学生が2名いた(表2)。

就職活動への影響については、「あまり影響しない」が13% (6名)、「全く影響しない」が3% (2名)、「どちらとも言えない」が33% (20名)、「やや影響する」が38% (23名)、「とても影響する」が13% (8名)であった(図3)。その理由として、自由記述欄には、行政栄養士を希望するか否かは別として、管理栄養士の業務を実際に見学し、理解できたことが就職活動へ寄与していると考えた記述も見受けられた。また、2期生、3期生とは違い、「全く影響しなかった」と回答した学生理由として「栄養士職に就くつもりがない」という記述があった。

問4「あなたは後輩のために再開させた方が良いと考えますか」については、「絶対再開した方がよい」が13% (8名)、「できるだけ再開した方がよい」が59% (36名)であり、回答者全体の72% (44名)が再開した方がよい、と回答していた(図5)。その理由として、自由記述欄には「管理栄養士の働く姿が見られる(2名)」「よい社会勉強になる。社会経験をしていただいた方がよい(3名)」などが記述されていた(表10)。

表8 「あなたは現在、乳幼児健診の見学は勉強になったと思いますか」4期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても勉強になった	管理栄養士の仕事を知れた (2名) 保健センターの管理栄養士の業務を知れた (1名) 早い段階で現場を見学できた (1名) めったに見学できる場所ではないと思った (1名)
やや勉強になった	管理栄養士の仕事を知れた (6名) 保健センターの管理栄養士の業務を知れた (1名) 乳幼児健診の内容が理解できた (1名) 多 (他) 職種協働を見ることが出来た (1名) 自分の将来を考える上で有益だった (1名) 普段出来ない体験だった (1名)
どちらとも言えない	健診に携わるスタッフを知った (1名)
あまり勉強にならなかった	時期を遅らせてくれればよかった (1名)
類似回答は1つにまとめた。	

表9 「乳幼児健診の見学は、就職活動に影響したと思いますか。」4期生自由記入欄。

選択肢	コメント
とても影響した	面接の時に強みとして使える (1名) 普段関わらない人とコミュニケーションが取れた (1名) 保健センターの業務が理解できた (1名) 視野が広がった (1名)
やや影響した	管理栄養士の働く現場を実際に見ることが出来た (3名) 就職先の希望に影響する (1名) 管理栄養士の業務が理解できた (1名)
どちらでもない	行政を希望していない (1名) あまり実感がわからない (1名) 希望する就職先により違う (1名)
あまり影響しなかった	行政を希望していない (2名)
全然影響しなかった	栄養士職に就くつもりがない (1名)
類似回答は1つにまとめた。	

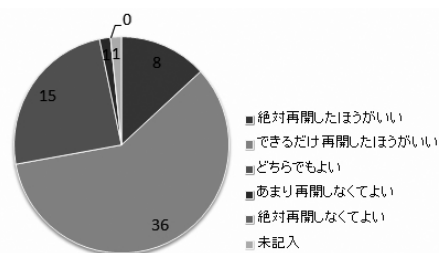


図5 「本年度の新入生は、担当者不在のため乳幼児健診の見学をやむなく中止しました。あなたは後輩のために再開させた方が良いと考えますか。」4期生の回答

表10 「本年度の新入生は、担当者不在のため乳幼児健診の見学をやむなく中止しました。あなたは後輩のために再開させた方が良いと考えますか。」4期生自由記入欄。

選択肢	コメント
絶対再開した方がいい	<p>学生の時にできる貴重な体験 (2名)</p> <p>管理栄養士の働く姿が見学できる (2名)</p> <p>乳幼児と触れ合える (1名)</p>
できるだけ再開した方がいい	<p>社会勉強になる、社会経験をしておいた方がよい (3名)</p> <p>進路を広げるきっかけとなる (2名)</p> <p>現場を見学した方がよい (2名)</p> <p>ムダなことではない、ないよりはいい (2名)</p> <p>これからの学習のため、現場の雰囲気をつかんでおいた方がよい (1名)</p> <p>モチベーションが上がる (1名)</p> <p>管理栄養士の業務を理解できる (1名)</p> <p>希望調査を実施すればよい (1名)</p>
どちらでもよい	<p>3年で行けばよい (1名)</p> <p>コミュニケーション能力をつけたり、栄養士の仕事が見学できるので、再開した方がよい (1名)</p> <p>役立つと感じたのは、時間をおいてからだった (1名)</p>

類似回答は1つにまとめた。

4. 考察

問1「現在(3年次/4年次)、乳幼児健診の見学は勉強になったと思うか」の回答や自由記述欄、問2「どの科目を学ぶのに役立ったか」についての記述から、入学年度に関係なく、多くの学生が現場の見学で得られた経験を大学へ持ち帰り、学内での学びに生かしていたことが推察された。また、大学内での実習や4週間に限定される臨地実習だけでは習得に限界のある、様々な年齢層、社会的背景を持つ対象者とのコミュニケーションの取り方、管理栄養士が医師、保健師、歯科衛生士など他の専門職と協働して健診業務を行っていたことを覚えており、その重要性を感じていた学生が多く存在したことは大きな収穫であった。

乳幼児健診の見学が、大学内でどの科目を学ぶのに役立ったかについても、入学年度に関係なく、大半の学生が見学内容と直接関連している「応用栄養学」、「公衆栄養学」、「栄養

教育学」およびそれらの実習を挙げた。また、地域の保健業務と言うことから、基礎系科目である「公衆衛生学」を挙げる学生も4期生に2名存在したが、これも見学と履修内容とが直接関連している科目であった。しかし、2期生、3期生には「基礎栄養学」、「解剖学」、「生理学」といった基礎系科目を挙げる学生がごく少数であるが存在した。これは、現場で管理栄養士による同じ月齢・年齢を集めた集団指導や乳幼児それぞれの体格、離乳食の進度に合わせた個別指導、小児科医、保健師による成長発達の健診と指導を現場で注意深く観察し、基礎系科目の知識を活用して業務を行っていることを学び取ったものと思われた。筆者は「基礎栄養学」を教えている立場から、管理栄養士業務においては、「基礎栄養学」、「解剖学」や「生理学」といった基礎科目の知識が重要であることを学びとってもらいたく見学を実施してきたが、残念ながらそれに気付けた学生は少数であり、4期生に関しては皆無であった。

就職活動については、アンケートの自由記入欄より、この見学をきっかけに行政管理栄養士の存在を知り、自分の進路として目指すようになった学生が2期生、3期生に1名ずつ存在した(表4、表5)。しかしながら、就職活動をほぼ終えた2期生の65%が影響しないと回答したことや自由記入欄の記述から、行政職を目指す学生以外には直接的な影響はほとんど無かった。それに比べ、3期生、4期生は、アンケート実施時点では「影響しない」と回答した学生が3期生で19%、4期生で15%と少ない傾向にあった。これはアンケート実施時期が就職活動の解禁を12月に控えた3年次の10月であったためであると考えられ、実際に就職活動を始めた後でのアンケートであれば、2期生と同様「影響しない(しなかった)」と回答する学生が増えていたものと予想される。

確かに、行政職を目指さない学生にとっては、この早期体験学習は直接就職活動に影響するとは言い難い。しかし、既報でも示したように入学時点でイメージする将来の進路として病院、学校、福祉を挙げる学生が大半である中¹⁵⁾、就職活動とほぼ同時期か、遅れて実施される臨地実習よりも前である1年次に行政の管理栄養士の業務について知ることは、結果として行政栄養士の道を選ばなかったとしても、将来の職業選択において選択肢を一つ増やすことにつながっていると考えられる。実際に就職活動を終えた2期生の自由記入欄からも、「管理栄養士の職種の認識は広がったが、自分の就職には影響しなかった(1名・全く影響しなかったと回答)」、「職場の一つとして見学できたことは良かった(1名・どちらでもないと回答)」、(表4)、などの意見の他、これから就職活動解禁を控えた3期生、4期生の意見としても「自分には影響はないが、興味のある人には影響する(3期生6名・「やや影響する」あるいは「はあまり影響しない」と回答)」「就職活動の視野が広がった(3期生・4期生1名ずつ・いずれも「とても影響する」と回答)」「就職先を希望するのに影響する(4期生1名・「やや影響する」と回答)」(表5)などの記述が少数ではあるが見られたことから明らかである。

一方、平成20年～22年度は、火曜日の午後の時間割が調整出来たこと、受け入れ先にも快諾いただいたことから全員の見学が実施できた。しかし、平成23年度は時間割の関係で健診日である火曜日の午後を空けることが困難となったため、夏季・春季休暇に希望者のみの見学に規模を縮小した。さらに、平成24年度は派遣先でご担当いただいていた管理栄養士の中原氏と保健師の百瀬氏が二人とも別部署へ異動され、後任者との連携を取る時間が取れなかったため、やむなく見学を取りやめた。全員参加で見学をした2期生～4期生に

「後輩に見学を勧めるか」「後輩のために見学を再開させた方が良いか」について尋ねた結果、2期生の82%、3期生の76%と多くの学生が見学を勧め、4期生の72%が見学を再開した方がよいと回答していた。理由としては「管理栄養士の業務が理解できる」「講義で聞くより理解できる」など問1の自由記入欄と共通する記述も多く、見学者本人が学習効果を実感し、それを後輩たちにも勧める姿勢が窺えた。

5. 結語

本学にて1年次に実施した早期体験学習としての乳幼児健診の見学は、見学直後の学びへの効果だけでなく、その学習効果は上位学年になっても継続性があること、将来の進路選択の幅を広げることに有効であることが示された。

謝辞

早期体験学習を実施するに当たり、多大なるご協力、ご指導をいただいた長野県東筑摩郡山形村保健福祉課の平沢隆一課長、中原美幸管理栄養士、百瀬尚代保健師、松本協立病院の矢崎棗医師、その他現場スタッフに深謝する。

平成21年～23年の乳幼児健診見学は、平成21年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「食の問題解決に向けた質の高い学士の育成」(代表者 廣田直子)の一環で実施した。

参考文献

- 1) Toshiro Shimura, Akinobu Yoshimura, Takuya Saito and Ryoko Aso J Nippon Med. Sch., 75, 196-201 (2008)
- 2) 齋藤高広、高橋和裕、釜田朗、島村和宏、田代俊男、清野見孝、鎌田政善、天野義和:奥羽大学歯学誌、34、9-189 (2007)
- 3) 高柳理早、山田安彦、大関健志、横山晴子、平塚明、大野尚仁、笹津備規:薬学雑誌、126, 1179-83 (2006)
- 4) 公益財団法人日本薬学会:薬学教育モデル・コアカリキュラム、<http://www.pharm.or.jp/rijikai/cur2005/A.pdf> (検索日平成24年10月31日)
- 5) 古澤忍:高等教育ジャーナル、17、95-98 (2010)
- 6) 鶴田聡、石黒貴子、森内宏志:医療薬学、35、377-386 (2009)
- 7) 伊藤朗子、中岡亜希子、岡崎寿美子、岩永真由美:千里金蘭大学紀要、6、63-72 (2009)
- 8) 古市清美、高橋ゆかり、本江朝美:ヘルスサイエンス研究 15、17-22 (2011)
- 9) 明石恵子、早野順一郎、木村和哲、浅井清文、鈴木匡、前田徹、飯塚成志:名古屋市立大学看護学部紀要、9、37-42 (2010)
- 10) 川野道宏、高橋由紀、梶原祥子、関根聡子、浅川和美:茨城県立医療大学紀要、14、123-133 (2009)
- 11) 平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」採択取組:「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」、http://www.nagasakipnc.jp/wp-content/themes/ngspnc/home_care.pdf (検索日平成24年10月31日)
- 12) 手嶋無限、中嶋幹郎、畑山 範:薬学雑誌、132、11-15 (2012)
- 13) 田中明:栄養学雑誌、Supplement to Vol.67, 65 (2009)
- 14) 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会理事会:栄養学雑誌、67、202-232 (2009)
- 15) 沖嶋直子、水野尚子、中原美幸、百瀬尚代、藤岡由美子:松本大学研究紀要10、61-69 (2012)
- 16) 松本大学:わかりやすい授業を目指して 2010年度FD委員会活動報告
- 17) 松本大学人間健康学部3期生:人間健康学部GPフォーラムにてポスター発表